平成27年度第2回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会会議録

◇日時：平成28年1月22日（金）10時00分～12時00分

◇会場：りんくる 304会議室

◇出席：松島肇（会長）、安田秀子（副会長）、荒井一洋、内藤華子、石山優子、原田京子、北條静香

欠席：伊井義人、岩城寧子

事務局：本間博人（センター長）、川村祐子（主査）

◇傍聴者：1名

◇議題

1. 平成28年度石狩浜海浜植物保護センター事業について
2. 石狩浜海浜植物保護センターの管理運営について
3. その他

◇議事

1. 平成28年度石狩浜海浜植物保護センター事業について

【事務局】 （資料1の説明）

【松島】 ありがとうございます。ただいまの説明について何かご意見、ご質問ありましたらよろしくをお願いします。

【本間】 補足します。来年度の事業計画につきましては、様々な方との連携がありますが、来月の6日に、石狩浜自然案内人の打合せと、はまなすフェスティバル実行委員会を開催する予定です。その中で詳細を決めていきたいと思っておりますので、流動的な部分も残っております。また、いしかり海辺ファンクラブさんとの協働事業につきましても、今後詰めていきたいと思っています。それと、市の予算の話ですけれど、2月2日に固める予定なのでまだそれも流動的だということをご理解いただければと思います。

【松島】 ありがとうございます。荒井委員をお願いします。

【荒井】 はまなすフェスティバルとはまなす広場のどちらも参加者が増えていますが、実行委員側の満足度はどんな感じですか。

【川村】 2月6日にフェスティバル実行委員会がありますが、今までは企画の段階からは参加していなかった方にも声をかけましたところ、声をかけた方がほぼ全員来るということになっておりますので、もっと盛り上げていこう、というものが高まってきていると感じています。

【荒井】 はまなすサポーターとかが少なかったという中でイベントはやろうと言うのは、悪く考え

ると外向きにはがんばろうとやっているけど、実際はお願いしてお願いして実施しているところも結構あるので、しかも小さい地域になればなるほど多くなってきている構造なのでどうなのかなと思って。今みたいな感じだったら、少なくとも、皆でこの地域に住んでいるのだし、お祭り皆でやろうよって動いているのは良いニュースだと思っています。であればどうやって地道な活動をやっていこうかという次の話に繋がられるなと思って聞きました。

地域の資源を使って、イベントだったら、収益を得よう、または上手くこうしよう、というのがねらいだと思うので、いい流れの一つだと思いました。ありがとうございます。

【松 島】 実行委員会として石山委員はどうですか。

【石 山】 フェスティバルに関しては、若干疲弊感はあったので、来年度から新しい人を入れ、何か活力剤になればいいと思います。もっと地元を巻き込んで上手くやっていければ良いのかなと、そこが課題です。

【荒 井】 本当に大変だと思います。早くから準備もしなければいけないし、天気も心配するし、「私なんて店閉めて来たの」ということですよね。けれど良かった、となるにはどうしたらいいか。工夫して実施側のモチベーションを盛り上げるものを皆で考えられたら面白いのかなと思います。

【石 山】 楽しまないダメだと思います。

【荒 井】 多分、祭りの最初はそうやって始まるのですよね。楽しそうだからやろうみたいなことになると思います。

【石 山】 人数が増えていることがプレッシャーになっている。

【荒 井】 来年下回る訳にはいかないと。

【本 間】 はまなす広場というのは目的が少し違った点があり、これまで、はまなすサポーターの交流の場的なことで2回ほどやっていた。今年度は、サポーターも集まらないことや、一昨年に「さけまつり」のときに何も（行事を）していなかったが、多くの方がセンターに寄って頂いていると聞いたものですから、試験的に「さけまつり」と同時に開催しました。やっぱり人が来るものですから、イベントとしてはまだましかなと思いました。ただ手段が目的化してしまうとどうなのかというのもあるので、きちんと石狩浜の保全に向けて進めていければなと思っています。

【荒 井】 数値としては、絶対に上げていこうとなる訳ですから、持続可能なキャパをある程度持って置くというのは正しい考え方かもしれないですね。600人くらいが丁度いいのではない

かとか。

【本 間】 そうですね。あまり多いと対応しきれないです。

【荒 井】 持続可能な数値を持っているというのは、保護センターっぽい感じですよ。今のはまなすフェスティバルとはまなすサポーターというのは近しい関係の事業なのですね。この570人で除草作業やったらいいのではと思います。

【石 山】 最初はそこを上手く連動させたかったですけど、なかなかうまくいかない状況です。

【松 島】 これ自体は大きなハマナス再生プロジェクトなので、それぞれメンバーも重なっているし、やることも少しずつかぶりながらやっているんで、全体像としてハマナス再生に向けてこれらのフェスティバルとかをどう位置づけて上手く繋いでいくのかというのがこれからの課題かもしれないですよ。

【荒 井】 ちなみにフェスティバル会場と移植とか除草する場所って離れているのですか。

【川 村】 いいえ、隣です。ただ、イベントを楽しみに来る方が草取りを望んでいるのかどうかは分からないです。

【安 田】 課題はやっぱりもっと地元の本町地区の方にもっと関わってもらえれば良いのですが、メンバーは花川の人間が中心ですから、その辺がちょっと、サポーターさんも本当は地元の方がもっと増えてほしいのですが、まだそこまでいってなくて、そこがこれからの課題になると思います。

【松 島】 ありがとうございます。

非常にメニューが増えてきているので、効果を考えたときにこれとこれは目的が同じだしという感じで、事業同士で関わりがあるものはもう少し上手くつなげて、整理が出来たらなと思いました。たとえば、啓発事業の外来種の駆除体験、今年度はセイヨウオオマルハナバチ駆除体験会ですね。環境整備事業のはまなすの丘景観保全で灯台周辺のボランティアによる外来植物除草をやってますよね。この2つは目的が近い。7月はマルハナバチの駆除をやり、4月、10月は外来種植物をやるというようなかたちで、上手くつなげてやっていければいいかと、今その整理をしておくの良いのかなと思います。

【荒 井】 保護センターとしては事業を整理したいと思っていらっしゃいますか。今おっしゃった方法と、もう一つの方法は、これで事務局が回っているのであれば、これで効果を上げることを考える。たとえば、今の外来種でいくと、「石狩浜海浜植物保護センターでは毎月外来種問題取り組んでいます。」とキャンペーンをやって、広報できれいにまとめておけば、「保護セ

ンターに行けば外来種とも関われるな」となる。サイエンスフェアとかでも保護センターで一つ出したとか言いたいですよ。今年度1年間やった活動を報告します、毎月こんな問題に取り組んできました。これは事務局側では2つくらいですけど、外から見たら、「外来種で1歩進んでいるのだ。すごいな、頑張っているな、この地域」と効果が上がってくる感じがします。

【安 田】 マルハナバチは次年度も取り組むのですか。

【本 間】 セイヨウオオマルハナバチ対策推進協議会というものを道央圏の市町村や企業が集まって立ち上げたもので、立ち上げた今年度と来年度の2カ年の事業としてまずは取り組みましようという動きになっています。とりあえず2カ年は環境省の補助金がつくということでやっています。もっと全道的に普及啓発していこうという動きはありますが、はっきりとは分かりませんが、2カ年は保護センターも協力してやっていこうと考えています。

【安 田】 取り組もうかなということですね。そうした場合に定期観察の会の場合は月に2回やるのですが、その際に見つけて潰すのですよ。そういうのも数をあげてやっているのですよと繋げていけばいいのですか。

【本 間】 そうですね。まず、皆さんに問題意識を持っていただいて、知っていただいた方には散策ついでにやっていただきたい。北海道でやっているセイヨウのバスターズと連携させながら周知していく。なかなか完全に駆除ができる訳ではないのですが、外来種の問題というものもきちんと位置づけできれば良いのかなと思っています。それに道条例では他の動植物を持ち込まない、持ち込ませない、放さないとしています。新しい外来種が増えないようにするというのが大事なのかなということで、そのきっかけとして、セイヨウのこともセンターでも協力しますと手を挙げさせていただいたのです。

【安 田】 定期観察の会やふるさと自然塾でもできるようになったらいいですね。

【本 間】 そうですね。行事と一緒にやってもらうことは可能ですので、皆さんと協力しながらできればと思います。どちらかというイベント的なことになるのですが、それをきっかけに考えていただければ、皆さんの活動で継続されていけるわけですから、そこにどんどん広げていければいいかなと思います。

【安 田】 新たにやるのは大変なので、何かのついでにだったら他の団体も参加できる気がします。あと、コウリタンポポが増えていきます。昨年度はファンクラブがゴミ拾いのついでにやってくれましたが、コウリタンポポも広がっていく気配があるので、上手い具合にできないかなと思っています。

- 【松 島】 保護センターとして外来種問題に取り組んでいます。という姿勢をHPとかでアピールして、その中で、メニューとしてセイヨウオオマルハナバチやコウリンタンポポなどの外来種リストを作って、問題なのですよというのをアピールしておく、今みたいに各団体でちょっと来たときに、「これ保護センターで問題になっていたやつだね、抜いておこうか」となり、そういう取り組みを色々な団体でしているということを簡単に分かるようにする仕組みにしておく、個人で行ったときにも抜いてもらえる取り組みに繋がっていくのではないかな。それが大きな目標だと思う。すごくいいご提案をいただけたと思います。
- 【本 間】 せっかく活動拠点として保護センターがあるので、そこで旬な情報とか外来種の啓発を出来ればなと思います。保護センターの展示物は職員が更新しやすいようになっていますので、そこが出来なかったのが去年の反省点かなと思っていますので、今言われたことを注意して来年度以降やっていかなければと思います。
- 【内 藤】 ヒキガエルもかなり目立ってきています。これも追加していただきたい。
- 【安 田】 沼があって、そこに紐状の卵を産卵しています。はまなすの丘でも確実に増えていると思います。
- 【内 藤】 それも作戦を立てたほうがいいのかと思って、砂丘の風資料館の紀要でもまとめさせてもらっています。それと4番の保全対策の石狩浜環境保全連絡会議は今年度開催するのですか。
- 【川 村】 まだ決まっていませんが、2月か3月に開催します。
- 【内 藤】 その中で今年度のパトウォークの情報とかはもう出ているのですか。
- 【本 間】 連絡会議の中で、パトウォークの情報や監視員の報告を全部まとめて報告する予定であります。
- 【内 藤】 市はこれだけ一生懸命にやっている中でどのくらいロープを補修したなど道の支援についての情報は会議を踏まえないと分からないのですか。
- 【本 間】 そうですね、直接は聞いていないのですけれど、現地を見ると道路側はきちんと管理されるのですが、海側の柵はほとんど手付かずという状況です。去年の連絡会議の後で、道の担当者とお話をしたときには、協力はするけれど、具体的に何をしてくれるのかとなると、予算の関係だと思えますけど難しいところがあるようです。なので、全面的に柵をすとかは難しいと思うので、要所要所で協力していただければ良いのかなと思っています。次の会議の中でもお願いをしていこうと思っています。

【内 藤】 監視員さんが業務外になるのだと思うのですが自主的にやっていた部分のロープは全部拾いロープですか。

【本 間】 拾いロープの他に親船地区の柵の管理を委託している業者の方が産廃の処理もしていて、監視員がそういう活動をしているのも分かっているので、春先に使わないロープを提供していただけるので、そのロープも活用しています。

【松 島】 ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。

【本 間】 平成25年度に弁天、親船地区の保護地区の拡大を行ったのですが、親船地区の更に西側の三線側方向に保護地区を拡大していきたいと考えております。ですので、次の連絡会議のときに提案をさせていこうかなと考えております。そうすると、市が全部管理することになるものですから、全面的にロープや柵で囲うのかも含めて議論したいと思うのですが、自然の良い場所なのであまり人工物は好ましくないと思います。そうはいつでも、入る人がいるので何かしら防ぐ手立てが必要かなと考えているのですが、その辺を調整しながら早いうちに保護地区の拡大というのを検討していこうかなと思っています。またそういう状況になりましたら、運営委員会の中で報告させていただきますので、よろしくお願い致します。それと、松島先生の研究ということで今までは親船地区のバギー車の走行調査などをやっていたと思うのですが、今後の予定というのはありますか。

【松 島】 調査研究に関しては来週から始めますが、地形の変化を調査しようと思っています。目的は自然の海岸砂丘というのが天然の防波堤として、崩れても自分で修復できるという年変動ですね。季節によっては削られて減るけれど、夏になったら戻ってくるという回復力のある、非常に弾力性に富んだ自然の堤防であるということの数値化したいと思ひまして、地形の測量をして、それに伴う夏場は植生がどう変化してあるいは塩分濃度がどう変わっているかとか、そういうものを毎月1回計測して年間どれくらい変動しているか、削られてもどれくらい回復できるかというようなことをまとめる予定です。

【安 田】 どの辺りをやるのですか。

【松 島】 調査員と予算の関係でおそらく新港の三線の方から先端のはまなすの丘までの区間になるかと思ひます。今までのイソコモリグモの調査をしたときの測量したデータもありますので、それと重ね合わせて測るという意味でもこの三線からはまなすの丘にかけての海岸線が一番データの比較も確保しやすいということをしています。

【安 田】 地形の変化というのは都度都度、測量するのですか。

【松 島】 測量します。ラインをとって海岸線から海岸林まで垂直線を引いて高さを測ってどう変化しているか。それを毎月1回調査して、どう変化しているのかを測って、合わせて植生も調べる。植物のあるところとないところ、あるところは地形が高くなっているとか、そういったことを数値として出せればなと思います。もうちょっとお金があたれば空中から写真を撮って写真測量という技術で面的に3Dモデルが作れますが、毎月の3Dモデルを作ると、体積、量としてどれくらい変化しているというのが出せる素晴らしいものなのです。いかんせんお金がかかるので、あたらぬことにはそれはできないのですが、測量くらいなら予算なく出来ますので、やっていくことになっています。あと柵を設置した区域に関しては10年を目安にしまして、昨年が7年目なので、あと3年くらいは継続して調査して、10年くらい車を止めたら植生が回復したというのをまとめようと思います。

【本 間】 センターで協力できることはありますか。

【松 島】 ありがとうございます。材料の貸し出しや、機材の設置とか保管をまたお願いしますと思います。ぜひよろしくお願いします。

【本 間】 分かりました。

【松 島】 空撮するための機材があればいいのですが、130万円かかるので今のところ無理です。

【本 間】 実は職員でドローンを買った人がいまして、浜で飛ばしたいなと思っております。

【松 島】 ドローンは私も持っていて、ドローンでは狭い範囲を撮ることは出来るのですが海岸線5キロくらいとなると、長い距離を飛んで測れるものがあつた方がやりやすい。更に撮った後にそれを処理するソフトも必要です。ちょっと今のだときついな、狭い範囲だけなら今の方法でもできます。

【安 田】 石狩浜に関わる色々なグループだったり先生だったりいますよね。やっぱり年に一度お互いにどんなことをやっているというものを発表の場、情報共有する場面が必要なのではないかな。保護センターを中心にやるのか、民間主導でやるのかはわからないですけど。それぞれ情報を持っているだろうし、どういうことを問題視しているとか、あらゆる人達に話してもらって、その場に本町地区の人達にも参加してもらえれば、何をやっているのかもわかって、今後良い方向にいくのではないだろうかと思います。

【松 島】 それは海岸フォーラムで出来ればやりたいです。道の方たちも含めて、広くどういう取り組みがされているという情報共有の場は市が主催した方が良いと思いますけど、それはまた相談させていただきたいと思います。

【本 間】 次の議題にも関わると思うのですが、その辺の工夫を皆さんお持ちになっていると思うので、上手くできればと思っています。

【松 島】 ありがとうございます。よろしいですか。

では、次は議題の2の方に移りたいと思います。石狩浜海浜植物保護センターの管理運営について事務局の方からご説明をお願いします。

2. 石狩浜海浜植物保護センターの管理運営について

【事務局】 (資料2の説明)

【松 島】 ありがとうございます。皆さんも色々ご意見があると思いますが、実際に運営活動をされている荒井委員からコメントをいただければと思います。

【荒 井】 1ページ目の一番下の交付金は感動的です。こういう風にするのはなかなかないです。受託者にビジョンを作れと言っているのですから、良いか悪いかは結果論なので難しいですが、行政からすると、安全策でやってほしい委託の内容だけやって余計なことはしないでほしいというのが一番確実なのに、今回はどういう風にしたらいいかは皆で考えてくれと、それで税金を使ってもいいと説得できる内容であれば交付金を付けると言っている訳ですから、こういうのはなかなかないと思います。

もう一つ、管理運営に関しては委託でやることは決まっていますやるべきことはしっかりやって下さい。安全に滞りなくこの施設を回して下さい。一方でその中のソフトの部分、やりたいこと、やるべきこと、これに関してはビジョンをみんなで作ってもらって、そのビジョンに合うように整理してやって下さいということですよ。モチベーションの上がる委託内容の計画案だと思いました。後から様々な課題が出てくると思いますが、それをどう乗り越えていくかこのメンバーやこれから入ってくる委員さんも交えてやるという流れだと思います。

【松 島】 ありがとうございます。それではご意見やご質問がありましたらよろしくをお願いします。

少し気になったところとして、運営責任者の立場は今のセンター長の位置づけになるのか、それとも市にセンター長が兼職でいてその下に運営責任者がいるというかたちになるのか、その関係性がわからない。

【本 間】 去年までは、センター長ということで想定をしていたのですが、市の職員体制も絡めてやらなければいけないので、まだ流動的にしていただきたい。もしかしたら、市としての職員の配置も必要になってくるかもしれないので、その場合は運営の責任者になるということです。

【安 田】 委託料の内訳の諸経費にある事業費とは何ですか。

【本 間】 市の予算的に委託料を積上げるときは、ここでいう人件費から原材料費までに対して25%を諸経費でみるということです。この事業費というのは活動の事業費ではなくこれらの人件費から原材料費を事業費としてみているということです。今回の委託で直接かかる経費に対して25%は受託者がかかる経費でしょうという一律にかける数字です。

【安 田】 人件費とかは出てその上で余裕を見てということなのですね。

【石 山】 ビジョンに関してですが、これを策定する時の契約は1年毎になりますか。中期的なものがあるから短期になりますよね。ということは1年毎であっても3年から5年のビジョンを策定するのか。

【本 間】 具体的な事業は単年度の計画を立ててもらおうということなのですが、目先ばかり見ても仕方がないので3年、5年を考えながらやるというビジョンも策定してもらおう。3年の計画なのか、5年の計画なのかによりますけど。3年の計画であれば、3年後にまた次の計画を作成してもらえればいい。

【安 田】 中期的なビジョンはいると思う。それを作るときにはファンクラブだけではなく運営委員会も絡んで動くことになるから、色々な人の視点を入れてしっかりした総合計画を作っていくということをしていく必要がある。今後の方向性を皆が共有して決めてそれに向けて積上げていくことが必要なので、ファンクラブも関わるし、こういう場も関わってしっかり作っていく仕事があるのではないかな。

【本 間】 最終的には運営委員会で策定していただくことになると思うのですが、ファンクラブだけではなく石狩浜の保全に関わる他の方や団体とも意見を交換しファンクラブとしてビジョンを策定して下さいということです。運営委員会でも管理しますし、市民から見てもファンクラブだけではなくほかの団体も加わっているということが分かれば、ファンクラブへの委託も妥当と判断されると思います。

【安 田】 市の総合計画とか環境計画を立てるときに、年に何回かそれに関わるメンバーでワークショップを開くのですけれど、作るなら色々な人の声を集めて作った方がいいと思うので、それに匹敵する大きな仕事になる。立ち上げの準備をしつつ、軌道に乗せつつやるのはすごく大きな仕事になる気がする。

【本 間】 ファンクラブにも任意の団体として回せるか不安もあるじゃないですか。その上で計画を重く捕らえてしまうと、管理委託が上手くいかないと思うので、そこまで考えなくていいと思います。皆さんの方向性はそこまで変わらないはずなので、もう少し簡単に考えてビジョ

ンはやりながら作れば良いと思います。

【安 田】 まずは、ファンクラブが動かしていけるような体制作りをして、その時点で作ろうかと動くという風にやっていくのが良いのかなと思います。

【原 田】 30代、40代の人達を中心にやっている中で、10年後、石狩浜をどんな感じにしたいのかというイメージはあっていいのでは。目先のことで動くならあきらめ方向に行かないとも限らないので、観光客がたくさん来るようにしたいのか、自然を生かした景観で市民や近郊の人達が和める場所にしたいのかを長期的な目でイメージしていた方がいいと思います。石狩浜は老若男女、子どもからお年寄りまで楽しめる場所です。先ほど松島先生も言っていますが、たくさん事業をやっている中で同じようなものを利用するときにまとめることも大切だと思います。

たとえば、「さけまつり」のときはまなす広場、今回は380人いらっしやって、あそこは駐車場にもなりましたよね。「さけまつり」は普段来ないような人も来ているので駐車場でカントリーコードの配布をすとか海岸を利用する以外の人達にもPRするチャンスだと思います。これだけたくさんをやるのは大変なので、大きい山を3つくらいにしてももう少しコンパクトにまとめたほうがやりやすいのではないかと。ビジョンに関しても、市民の共通の財産として保護センターを活用するという事なので、町内会も活用し、特定の人だけではなく広く知らしめる方法はないかと思えます。委託された後、市にビジョンを提出するときにはそのようなことも含めて、それに向って進んでいく方が迷ったときにも修正できると思うので10年単位のものがあつたほうがいいと思います。

【松 島】 ありがとうございます。

【安 田】 ビジョンを作るときは、町内会や近くの人達、小中学校などの関わる人達を入れて、考えてもらうことになると思うので、その過程が大事になると思います。皆が関わって作ることで重みがあるものができる。手間はかかるが落ち着いて動けるようになった段階でそうすることが必要だと思います。

【荒 井】 ビジョンを作っている、君たちで自分の未来を描いていいからと言われたら重い。ビジョン策定にあたっては市がこのような人達を集め、このようなやり方で作るという資料をある程度は作ってくれるかもしれないですし、もしかしたら、1年ぐらひかけて丁寧にするならそれなりの仕事になる。というのは実感しました。そう考えれば、1年目はこれまでのことをやり運営に慣れながら、もう片方でビジョンを作っていくみたいなのがいい。今もビジョンはあるのですよね。5カ年計画があつてそれに基づいて運営されているわけですから。

【本 間】 大本は環境基本計画に基づいてやっています。

【荒 井】 ビジョンを急ぐ必要はないと思いました。受託側としては運営することで精一杯だから、更に未来も考えてというのは大変。具体的に仕様書を書くなら、ビジョンを作るように。ではなく、1年目の目標は運営になれること。安全にやること。みたいにして、1年間もしくは翌年の秋くらいには作りたいね。そのくらいのペースでやりましょうくらいの方が運営する側も安心するのかなと思います。

【本 間】 石狩浜を観光地化したいのか、それとも静寂の中でくつろげる場所にしたいのかというのは、市が地元の町内会や市民を含めて議論しなければいけないと思う。それを皆さんに勝手に考えてというのは無責任なところがありますが、将来的にはボランティアガイドや資料館も含めて全体で考えることが必要だと思う。保護センターの運営にあたってのビジョンで当面の目標を作っていて、将来的には他の施設や団体から聞きながら、積上げていくことが必要になってくるとは思いますけれども、最初は、保護センター設置の目的を達成させることからみせて、石狩浜をどうしたいのかを考えれば良い。それには現状の課題を分析して、それに対しどういった活動をしていけばいいかというものを当面の目標として上げていただければいいと思います。市がやるべきところも出てくるとは思います。まずは、センターの運営に特化した中で石狩浜の将来をどうするか目標を立てていただければいいと思います。

【安 田】 砂丘の風資料館やビジターセンターなどあの地区全体でどうするかというのは必要です。資料館も入館数が伸びずに悩んでいる。実は色々な素材がある場所なのに活かしてきれていない。あそこが活気のある場所にするためにはPRの仕方だと思う。この際そういう動きを市の方でもしてもらえればいいのかでは。

【本 間】 市が主体でやるのか、地元の市民主体でやるのかというものがある。市がやるとなると縦割りではなかなか進まない。なので、何十年も進んでいないのだと思う。私個人的には本当に良いものがあると思う。思い切った展開をやっていると思う。市長がよく言っているのは、はまなすの丘では手前で車を止めて歩いて行ってもらうとか、必ずボランティアがついてガイドしながら行くとか。たとえば、拠点を設けて30分コース、1時間コースなど様々なメニューを用意して、多様なニーズに対応できるガイドをし、自然は絶対に守るという具合に、大胆にやろうと思えばいくらでも出来ると思います。それは市が主導でやるよりも地元の方がそうしたいと言った方がいいのではないかと思います。

【荒 井】 自分が保護センターを運営するときに石狩浜全部のビジョンを作れというのは確かに重い。今のところ誰が中心になってやるのだろうと感している感じですね。となるとお金を投入して外部から整理役を入れたほうがいいのかも。順番としては今回雇われる3人とその周りで施設のビジョンは作れますよね。それを盛り込んでもいいと思います。それは自分たちで決めてくれ。もちろんこちらからの要望も入れて決めよう。その決め方は皆さんで検討してもらい一緒にやっていきましょう。というのがあっていい。これを演習した後に、石狩浜のビジョンを作ろうというステップがいいのかなと感じた。具体的な仕様書を書くとき

に皆が驚かない、誤解を生まない書き方で、こういうステップで私達の施設のビジョンを作り、地域のビジョンを作っていこう。という盛り上がりの印象を受けました。

【松 島】 ビジョンと言うのは基本的にはセンターを運営していく活動ビジョンがあって、小樽も含めた石狩海岸全体のビジョンがあって、その中で石狩浜はどうあるべきなのかという形ですべてが繋がっているというかなり大きな話になる。いしかり海辺ファンクラブが受諾団体として、白羽の矢が立っている理由に今までにこういうビジョンを作ろうと動いてフォーラムを3回開催し石狩の魅力は何だというものを積上げてきたという経験もある。まだ全員が共有できるものには到っていませんけれど、自然を大事にしていこう。という方向は多くの人が賛同できると思う。特に保護センターというのは自然環境を守っていこう、推していこうという目的があるので、そのビジョンからいくとファンクラブの活動は合致している。ですから、保護センターを運営していく上ではファンクラブの活動を活動ビジョンとして示していただいて、運営しながら保護センターから発信する石狩地域のあり方とか、地元の方達との繋がりというものを提案していただく。それに上乘せしていくかたちかはわかりませんが、ファンクラブに委託するか、外部から専門の方を入れビジョン作りを並行して進めていく。いきなりそれを作ろうとすると、それだけで数年かかってしまい、なかなか進んでいかない。今もっているものをある程度長期的なビジョンに掲げ、それで決まりにするのではなく、それを出し入れしながらこれでは歴史的な観点が抜けているから次は入れようという形で実際に運用しながらやり取りをしていくのがいいのではないかと。

【石 山】 夏頃までに予算を決めるので、最終的に仕様書を29年度からの企画に向けて作る。その前に1回運営委員会にかけ、その前にファンクラブとして他団体と意見が合致している状態になってなければいけないのですよね。

【本 間】 そうですね。ただ、初年度にいきなりがっちりしたものは出来ないと思うので、基本的には来年度の事業計画と同じ事業を基本にしつつ、違う展開があれば議論をすればいいと思う。あまり負担にならないように積上げていただければと思う。あまり増えてしまっても運営が出来なくなってしまう。

【松 島】 提案としては、基本的に今の事業を引き継ぐという形の事業計画を立てた方がいいと思います。これは運営委員会で承認されて今まで進めてきているものなので、これらの事業に対しては多少の意見はあっても、まず、反対がない。なので、それを引き継いで進めていくという形の方がいい。いきなりドラスティックに何かをやろうとするとそこで議論が出てきて進まなくなってしまう。まずは、今やっている事業を引き継ぎながら、いかに効率化していくか、足りないものを足していくかと考えていくのがいいのではないかと。

【北 條】 運営イメージ図を見てもまだ大きな柱が見えてこない。やることは決まっても何をしていくという意見が大きな柱として作られていないのが、色々な意見が出る一つなのかなと

思う。こういう形で運営のイメージをしていくと関わっている人達だと見えないものも新しい人を入れることによって、新しい意見を下さる可能性もあるので、新しい方や地元の協力は必要だと思います。あと、市の情報交換は非常に大事だと思います。市のネットワークで情報を共有していただいて、資料館と図書館だけは教育委員会というくくりではなく、そこに保護センターも入れるともっと認知度も上がると思う。親船地区にも保護センターを知らないという方がいらっしゃる。何かあるのは知っているけれど何をしているかは知らないという方も多いです。名前が難しく、保護センターというと学識がある方しか入れないような雰囲気がある。HPをチェックする方やお子様の学校を通して知ったという方だといいますが、ある程度のお年の方でHPも見ないですし、広報を見てもよくわからないということもあるのですよね。まずは、「ああ、そういうことをやっているの」とこからなのですよね。そうしたら孫を連れて行ってみようかという話になり次世代につないでいきますよね。そこでお孫さんも海辺にこういうものがあるということを知ってくださいと思う。まずは、そこから大事なのだと改めて思った。地元の人と手を結びお茶会等で今後の企画をしていくのであれば、本町地区は大事なのですが、本町地区の限られた人数なので、これからまだ手を広げていきたいのであれば、親船地区も含めたPRも必要になってくるのかなという気がしました。

【松 島】 ありがとうございます。

【本 間】 まず、保護センターをどうしたいのかですよね。地元である親船地区で知らないというのはショックな面もあります。であれば、街中の人は相当知らない方がいるというのが現実だと思いますね。

【北 條】 子ども達は、石狩小や石狩中で授業を受けてきて、子ども達だけで行くこともあり色々知っている。けれど、親は「何それ？」という感じなのです。共働き等色々な家庭事情もありますけど、親も巻き込んでいくとより一層親しみがわく。年に1回でもいいのでボランティア参加等もしてもらえないかなと思うので、まずは、そこからなのだと思います。

【松 島】 ありがとうございます。

【本 間】 石狩翔陽高校にボランティアグループがあるので、そこと上手く連携できればいい、それをどんどん広げていくとか、色々なチャンネルもあると思うので、上手く活用できればと思います。

【松 島】 情報のつながりは行政を通すよりも個人レベル、市民レベルの方が上手くいくような。その強みを上手く生かして運営に横のつながりが出来るような活動をやっていただきたい。そこで上手く市も使えばいい。

【本 間】 運営を委託したからといって、市がやらないというのではなく、高齢者とかは市や町内会を活用して、両輪となってやっていければいいかなと思って、単なる委託ではないということとはご理解いただければと思っております。その意味では職員にセンター長がいたらいいのかなと考えていました。

【松 島】 以前、センターの名称をいずれかの段階で変更を視野に入れるとお話がありましたが、今の北條委員のお話を伺っても。

【安 田】 りんくるみたいに愛称をつければどうですか。

【北 條】 正式名称はそのままで問題ないと思う。愛称があると親しみやすい。

【本 間】 去年の段階では、ファンクラブさんのほうで何年か委託を受けていただいて、軌道に乗り、施設全体を管理運営していくという想定をしていて、そのときにもっと親しみやすい名前に変えていければなと考えていたのですが、愛称もありなのかも知れないですね。

【松 島】 愛称であれば条例の変更も必要ないですよ。

【本 間】 ないです。平成32年に20周年を迎えるので、イベントが出来ればなと思っているのですが、そのときに愛称募集とか区切りのいいときに出来ればと思います。そのときには委託も始まっているところなのですが、また考えていければなと思います。

【松島】 32年は遠いので委託を機に愛称を募集しては。名称変更を20周年でとかをご検討いただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは議題の3その他として事務局の方からあればよろしく申し上げます。

3. その他

【事務局】 3月末で委員の任期が満了となります。外部委託が29年度スタートを想定しているものですから、任期が28年度までの2年になるのですが、今いるメンバーに継続していただければなと考えておりますのでご検討いただければと思います。ファンクラブに委託した段階で石山委員が委員でいることは難しいので辞退していただければいいので、1年間だけ委員になってもらうというかたちになりますけど、引き続きお願いしたいと思います。また改めてご照会させていただきますので、よろしくお願い致します。

それと議題1の事業計画の中でご説明しましたが、今週末、地下歩行空間で一つは北3条広場で北区魅力発信フェスタというものがございます。これは札幌市北区と石狩市、当別町の3市町が一緒になって催しものやるのですけれども、石狩市のコーナーで今回のフォトコ

ンテストの全作品を展示する予定になっています。もう一つ、C I S Eサイエンスフェスティバルというもので、これは地下歩行空間の北大通広場で、安田委員と原田委員にご協力いただいているのですが、保護センターとして、「海浜植物はどっち？」という内容で体験ブースを出します。それと合わせて外来種のセイヨウの推進協議会としてもブースを出しています。もしお時間ありましたらお立ち寄りいただければと思います。以上です。

【松 島】 ありがとうございます。委員の皆さんからご意見やご質問はありませんか。

【本 間】 今回の事業計画と運営委託につきましては、もう一度整理し、出来れば年度内にもう一度開催したいと思っておりますので、年度末で忙しいと思っておりますけど、よろしく申し上げます。あと、議題2で説明し忘れたのですが、具体的な運営の仕様書の案も付けさせていただきましたので、時間がありましたら目を通していただいて、次回の運営委員会のときにご意見をお寄せいただければと思います。よろしく申し上げます。

【松 島】 これで、第2回の運営委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

議事録確認しました。

平成28年2月10日

石狩浜海浜植物保護センター

運営委員会会長 松島 肇